

Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

病気と苦痛に対する人間の闘いのために

当社は、この企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、積極的な努力を続けています。



株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第65期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)につきましては、積極的な学術情報提供活動により主要新製品の売上拡大を図るとともに、経営全般の効率化に努めましたが、昨年4月の薬価引き下げと新たな後発医薬品使用促進策の影響により長期収載品の売上が減少し、減収減益となりました。

現在、医薬品業界においては、新薬創製の成功確率が年々低下し、世界的に研究開発コストが増大するとともに、種々の医療費抑制政策が進展するなど、厳しい環境が続いています。このような事業環境のなか、わたしたちは、新薬開発型医薬品企業として持続的な発展を実現するために、次のとおり取り組んでいきます。

開発パイプラインの拡充

持続的成長のためには、開発パイプラインを拡充し、継続的に新薬を市場に送り出していくことが不可欠です。世界最先端の技術を活用した、独創的かつ画期的な医薬品創製を加速する取り組みを進めるとともに、引き続き積極的なライセンス活動にも注力し、今後も継続的な新薬上市に繋がる開発パイプラインの拡充に努めます。また、拡充した開発パイプラインのPOC(Proof of Concept: 概念実証)の早期確立にも努めていきます。

海外展開の推進

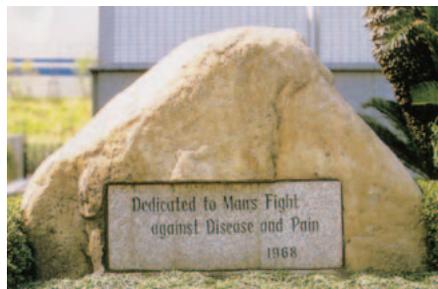
自社創製の新薬を世界中でご使用いただけるよう、欧米にアジアを加えた海外での臨床開発を推進するとともに、提携企業への導出を通じ、自社創製化合物の海外での上市を目指し、グローバルな事業展開を推進します。また、海外展開を見据えた人材育成に取り組んでいきます。

企業基盤の強化

グローバルレベルでの競争力向上のため、人材の育成と活性化に努めます。また、多様性の向上や社内外の連携強化により、様々な環境変化への対応とイノベーションの実現を図ります。さらにCSR活動についても一層の推進に取り組みます。

わたしたちは、「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」という企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、積極的な努力を続けていきます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



1968年(昭和43年)に中央研究所(現在の水無瀬研究所)の建設を記念して建立されたモニュメント。小野薬品の企業理念がここに刻まれています。

代表取締役社長 **相良 暁**